

教育目標

- 「心豊かでたくましくのびのびと自己を発揮する子どもの育成」
- 明るく素直に自分を表現する子ども ○思いやりがあり豊かな心をもった子ども
- 自分の力を発揮しながら遊ぶ子ども

年度末の最終評価**自己評価** **教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し**

- ・保護者にも幼児期の遊びの大事さが伝わってきている。
- ・幼小連携講座の研修が、小学校の先生に幼稚園を知ってもらうよい機会となった。
- ・子どもの成長に伴い、体を動かして遊ぶことがどの子どもも確実に好きになっている。
- ・子どもの成長に伴って人間関係が育ってきていることがわかる。
- ・管理職を含めて、組織的に連携を取り合う方法や時間の確保が必要である。

学校関係者評価 **学校関係者による意見・支援策**

- ・幼稚園を知ってもらう上でも、様々な場で実践事例が紹介できたことはよかった。
- ・幼小接続をめざした取組はすぐにできるものでないため、焦らず取り組んでほしい。
- ・子育て支援では、今後も子育て先輩ママとして、地域やOBが協力していきたい。
- ・担任と子どもとの関係のよさが、子どもたちの人間関係によい影響を及ぼしている。
- ・預かり保育が定着してきたが、保護者が園任せにだけはしないようにしてほしい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	平成30年10月3日	学校運営協議会
最終評価	平成31年3月6日	学校運営協議会

（１）幼児が主体的に遊ぶ姿を重視する **保育の改善・充実****具体的な取組**

- ・幼児が主体的に遊ぶ園庭の環境構成を考え、子どもの姿から日々の保育を見直す。
 - ＊安心、安全、主体性を重視した園の環境が生かされる保育環境づくり
- ・計画性をもった保育の取組と園行事の精選
 - ＊ねらいを明確にした週案の作成と園行事の見直し

（取組結果を検証する）各種指標

- ・幼児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討
- ・アンケート項目「子どもは自分から遊びを見つけて遊んでいますか」

中間評価

各種指標結果

- ・幼児の遊ぶ姿の変容（週案の反省、評価の記述・事例検討から）
- ・アンケート結果「93%」

自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> 研究主題にある「園庭の環境構成のあり方」を考えていくことは、保育の改善や子どもの変容につながりつつある。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> 遊べて環境が広がったことは、安心・安全で主体的に遊び込める保育に繋がっている。探究する力を育むための園庭の環境構成のあり方については、2学期以降も視点を定めて取り組んでいく。
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> 幼児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討 アンケート項目「子どもは自分から遊びを見つけて遊んでいますか」
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちがさらに安全で安心して主体的に遊び込めるために園庭の環境構成を考え取り組まれているが、保護者によりわかりやすく進めていくことが大切である。 幼稚園は大勢の子どもがいてこそ一人一人の子どもの育つところであるが、自分の子どもしか見えていない保護者が増えているように思う。

最終評価

<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> 幼児の遊ぶ姿の変容（週案の反省、評価の記述・事例検討から） アンケート結果「93%」 	
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> 研究主題である「園庭の環境構成」に迫るために、ねらいや保育内容を共通理解し、園庭マップ作りを行い園庭整備してきた。さらに、子どもが主体的に遊ぶ姿を追求していきたい。
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> 園庭の場所ごとにゾーンを作り、場毎のねらいや課題を共有しながら保育を行っていくことで、子どもが遊びを広げ、深めていこうとする姿へと変容してきた。
	<div>重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> 幼児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、評価の記述・事例検討 アンケート項目「子どもは自分から遊びを見つけて遊んでいますか」
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ほとんどの保護者には、園庭の環境を変えたことは保育の充実につながったと理解してもらえたが、行事を含め以前の園庭環境を好まれる保護者には、十分理解してもらえるまでには至らなかった。

（２）小学校段階への学びにつなぐ「学びに向かう力」を育む 幼小接続の視点

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> 接続カリキュラム作成を意識した年間交流計画の作成 <ul style="list-style-type: none"> 通園区域内にある小(中)学校への保育公開及び合同研修 「親子で絵本！」の取組の定着
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> 交流の事前・事例検討

- ・公開保育及び合同研修の回数
 - ・「親子で絵本！」のノート活用度
- アンケート項目「“親子で絵本！”の取組は楽しめていますか」

中間評価

各種指標結果

- ・小(中)学校への保育公開及び幼小連携会議の継続
- ・「親子で絵本！」のノート活用率 100%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・保育参観や幼小中交流は、計画的に見通しをもって取り組むことができた。
- ・読書については、園全体で継続して取り組んでおり、活用率は100%である。
- ・親子読書は、6割程度しか実施されておらず課題である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・1学期小学校との交流は実施されていないが、連携の話し合いは随所でできた。
- ・親子で100冊絵本読書をめざし、保護者同士で“おすすめ絵本！”を紹介しながら楽しんで取り組めるようにする。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・小(中)学校への保育公開及び幼小連携会議の継続
 - ・「親子で絵本！」のノート活用度
- アンケート項目「“親子で絵本！”の取組は楽しめていますか」

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・市立幼稚園も小学校、中学校と同様に地域の中にある幼稚園として、さらに子どもの育ちがにつながる交流を進めてほしい。
- ・小学校で使用している100冊読書ノートを公立幼稚園でも活用していることは、幼小が繋がっていく上での良い取組である。
- ・親子読書からも親の忙しさはわかるが、幼稚園に任せきりで親としての責任が果たされていない傾向が強くなっている点は心配である。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

- ・小(中)学校への保育公開及び幼小連携会議の継続 100%
- ・「親子で絵本！」のノート活用率 100%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・保育公開は広く発信し、近隣の小学校だけでなく私立幼稚園や保育園からの参加もあった。また、幼小連携による交流は、ねらいや取組内容を事前・事後でしっかり話し合うことができた。
- ・家庭で親子読書のできていない割合が、2割近くに増加した。

分析を踏まえた取組の改善

- ・近隣小学校との交流だけでなく、小規模な小学校との互惠性のある交流を目指して取り組めた。
- ・毎週木曜日を絵本貸出日にしているが、図鑑や迷路等の本を借りる子どもが増える傾向にもあるため、親子読書のできる絵本の貸し出しを積極的にしていく必要もある。

重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・今年度は、子どもが安心して学校に向かえるための幼小連携による交流を行うことができたため、接続カリキュラムの作成に向け大きく前進した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・保幼小（中）連携による保育公開研修会は、次年度も今年度同様に自園で行い、近隣の就学前施設が一つでも多く参加してもらえるように発信していきたい。 ・「親子で絵本！」離れの背景には、保護者の忙しさとともに子どもが自身で楽しめるゲームやビデオ・インターネット等を視聴する時間が多くなっていることがあげられる。PTAとともに家庭教育講座等を通した保護者啓発を推進していくことが重要である。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・市立幼稚園が小学校、中学校つながりあえるのは、地域の方が点から線へとつながるように尽力されてのものである。幼小中連携は、地域力が衰えないためにも大切である。 ・親子読書からも親の忙しさはわかるが、保護者は幼稚園に子どもを預けるだけでなく、幼稚園とともに子どもへの教養を大事にしてほしい。

（３）自ら体を動かす意欲を育て、基本的な生活習慣を形成し、自信と自立心を育む **心と体・生活習慣**

具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・年齢にふさわしい生活習慣の定着に向けた環境づくりと保護者との連携・啓発 <ul style="list-style-type: none"> ＊「早寝・早起き・朝ごはん」の定着、テレビ・ゲーム（スマホ）等の依存に向けた啓発 ・運動遊びを取り入れた園の環境を生かした保育計画 	
（取組結果を検証する）各種指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目 <ul style="list-style-type: none"> 「年齢にふさわしい生活習慣が身に付きましたか」 「運動遊びを通して、体力がついてきていると思いますか」 ・週案の中の「運動遊び」の取り入れ方及び反省、評価の記述。 	

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣が身に付いてきている 83% ・体を動かして遊ぶことが好き 100% ・実施後の週案の見直し。ほぼ毎日何らかの「運動遊び」の活動あり 	
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の定着に関しては課題があり、保護者の評価は厳しい。 ・幼児期は、体力をつけ体幹がしっかりとしてくることで内面も育っていくため、運動を取り入れた保育が週案に記載されている。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・早寝・早起き・朝ごはんの定着と、十分な運動の推進を家庭に啓発する。 ・運動をとまなう活動を引続き週案に明確化し取り組む。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目 <ul style="list-style-type: none"> 「年齢にふさわしい生活習慣が身に付きましたか」 「運動遊びを通して、体力がついてきていると思いますか」 ・週案の中の「運動遊び」の取り入れ方及び反省、評価の記述。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・長時間預かり保育の子どもについては、幼児期の子どもの体力面を十分に考え、幼稚園と家庭が連携しながら取り組んでいくことが大切である。 ・子育て支援事業の一つである「ひよっ子クラブ」への参加者に向けて、先輩ママとして安心感につながる子育てサポートをしていきたい。
---------	---

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目 「年齢にふさわしい生活習慣が身に付きましたか」 80 % 「運動遊びを通して、体力がついてきていると思いますか」 97 % ・週案の中の「運動遊び」の取り入れ方及び反省、評価の記述。 	
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・学年が上がるほど、生活習慣の確立の困難さが見受けられるが、親の多忙感とともに子ども任せの生活になってきている点が伺える。 ・子どもたちは広くなった園庭で、縄跳びや平均台、一輪車、雲梯、総合遊具等での遊びが増え、保育の中で欠かさず体づくりの要素が盛り込まれている。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の確立は、家庭とより連携し、保護者啓発と園児への指導を行っていく。 ・広くなった園庭で、体を思い切り使って遊び込める保育を、引き続き行っていく。
	重点目標の達成状況、次年度の課題 <ul style="list-style-type: none"> ・園庭を有効活用して、長縄や平均台、雲梯、総合遊具を使った遊びをする子どもが増えた。また、一輪車・スケーターなどにも挑戦し、競い合いながら達成感を味わう子どもも多くみられた。 ・寒くなるに従い園に来るのが遅くなる傾向となった点は、家庭との連携において課題である。 ・小中学校で運動能力の低下が取りざたされている状況の中で、幼児期の運動を取り入れた保育は、十分意識して次年度も取り組みたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 <ul style="list-style-type: none"> ・就労保護者の増加が、子育て意識の低下につながらないように働くかけてほしい。 ・地域の中で子育てママが孤立しないように、園と連携していきたい。 ・子育て支援では、今後も子育て先輩ママとして、地域やOBが協力していきたい。

（４）自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性（折り合う心）を育む保育を推進する

信頼関係・折り合い・自己肯定感・公共心の芽生え

具体的な取組 <ul style="list-style-type: none"> ・安心して園生活を送るための教師との信頼関係づくり ・発達に応じた友達との人間関係づくり ・自信と自立心を高めるための自分でできる喜びを味わわせる援助 	
（取組結果を検証する）各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目 「幼稚園に行くのを楽しみにしていますか」 	

「仲の良い友だちがいますか」

「安心して、自信をもって園生活を送っていますか」

中間評価

各種指標結果

- ・信頼度 97%
- ・4歳児 91% 5歳児 97%
- ・安心・自信 91%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・子どもたちは園内環境に慣れ親しんでおり、自分を十分発揮して子ども同士が生活している。
- ・一人遊びを好む子どもの場合、個々の発達段階に応じた友達関係も備わってきているため、保護者への理解が深まるように取り組む。

分析を踏まえた取組の改善

- ・園内研修等を通して子ども一人一人の育ちをしっかりと捉え、めあてに沿った取組を見直す。
- ・降園時等を有効活用して、日々の保育から子どもの育ちを保護者にわかりやすく伝えていく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・アンケート項目
「幼稚園に行くのを楽しみにしていますか」
「仲の良い友だちがいますか」
「安心して、自信をもって園生活を送っていますか」

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・子育てに不安を抱える母親が多い現状から考え、母親の安心感につながる幼児期の子どもの成長・発達の道筋がわかる子育て支援をしてほしい。
- ・ほとんどの家庭では、家に帰ってから子どもが群れて遊べる環境にはない。幼稚園という場は、人間関係の育ちをつくる上で大変重要な場である。

最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果

- ・信頼度 94%
- ・4歳児 95% 5歳児 93%
- ・安心・自信 94%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・教師と子どもの信頼関係は築かれており、園では嬉々とした姿で生活をしている。
- ・どの子どもにも学年集団に所属することの心地よさが感じられるように、取組に応じた個別の援助や支援を大事にして取り組めた。

分析を踏まえた取組の改善

- ・園だよりの「子どもの姿」を写真や短いコメントを使ってわかりやすくしたり、学級懇談会等で具体的事例を出し合いながら、幼児期の人間形成の基礎となる育ちについて、保護者の理解が得られるようにしたりし、発信の工夫をしていく。

重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・一人一人の子どもの幼児理解を確かなものにしながら、広くなった園庭を活用して連続性のある保育を継続することで、自らが主体性を発揮して探求する力を身につけたり、特に年長によるグ

	<p>ループでの当番活動やお世話活動において、子ども同士が様々な場面で絡み合いながらよりよい人間関係作りが行えた。次年度は、さらに新たな年長の子どもたちを核にしながら、より自分らしさと主体性の発揮できる活動を行っていきたい。</p>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの家庭で子どもと母親の密着した生活が増えてきている今、幼児期の子どもの人間形成においては、幼稚園が核となり親支援することが重要な要件となっている。 ・園との信頼関係づくりにおいては、PTAがさらに園に入り込んでともに取り組んでいくことが大切である。